

海外安全対策情報（2019年1月～3月）

1 社会・治安情勢

武装強盗、車の窃盗・詐欺事件が多発しており、女性や子供が被害となる誘拐・暴力事件も恒常的に発生しています。

また、ルゴゴ（Lugogo）バイパス上の信号で停車中に襲撃され金品を強奪される事件も発生しており運転中も周囲への注意が必要です。

1月から3月の間に32人がカンパラ～グル間の高速道路において交通事故で死亡しています。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

（1）盗難・強盗事件等

ア 邦人被害事案

2月 カンパラ市内の日系企業事務所において、電化製品等を窃取する侵入被害が発生しました。

3月 ワキソ県ナンサナ地区で乗車中のマタツ内において、携帯電話の窃盗被害が発生しました。

3月 カンパラ市内の路上において、手に持っていた携帯電話をバイクで強奪される被害が発生しました。

イ 邦人以外

2月 ユンベ県では街路灯がないため、ひったくりやバイク盗難が多発しました。

2月 マサカ県において、ビジネスマンが武装した犯人に撃たれました。

（2）殺人事件

ア カンパラ市（Kampala）

1月7日に国際東アフリカ大学の学生2名が殺害されているのが発見されました。

イ ワキソ県（Wakiso）

2月26日Turrus学校で配備されていた警備員2名が殺害されているのが発見されました。

（3）強姦事件

邦人が被害に遭ったとの情報には接していませんが、ウガンダにおいては強姦事件が深刻な問題となっています。また、被害者となる女性の大半が未成年者であり、近親相姦が頻繁に発生しています。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダ政府は近隣国ソマリアの治安向上を目的にアフリカ連合ソマリアミッション (AMISOM) に自国軍を派遣し、ソマリア武装テロ組織「アル・シャバーブ」に対する掃討作戦に参加しています。このため、同組織はウガンダへの反発を強めており、しばしば当国を名指しで報復する旨発言していることから、引き続き注意する必要があります。

また、シリアやチュニジア、バングラデシュで発生した日本人が殺害されるテロ事件をはじめ、ISIL (イラク・レバントのイスラム国) 等のイスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けた者によるとみられるテロが世界各地で発生しています。したがって、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があることから、このような情勢を十分に認識して、誘拐・脅迫・テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情報等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫される事件は発生していません。しかし、ウガンダにおいては人身売買および身代金を目的とした誘拐事件が多数発生しており、既に、今年に入ってから100件以上の誘拐事件が発生しております。特にカンパラ市中心部のオールド・タクシーパークや時計台付近で発生しています。

邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

ア ワキシ県 (Wakiso)

1月24日、5歳の少年が誘拐される事件が発生し犯人は、約15,000円の身の代金を要求しましたが払えず殺害されました。

イ カンパラ市 (Kampala)

2月15日にカソコソ (kasokoso) 地区で3歳の女の子、2月17日に6歳の男の子が誘拐され殺害されました。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的とされる可能性は低いですが、上記「テロ・爆弾事件発生状況」のとおり、テロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険も排除できませんので、十分注意のうえ安全対策を怠らな

いよう努めてください。

また、事務所や自宅への侵入被害が発生していますのでソフトターゲットにならないようにセキュリティがしっかりした建物を選ぶようにしてください。

以上